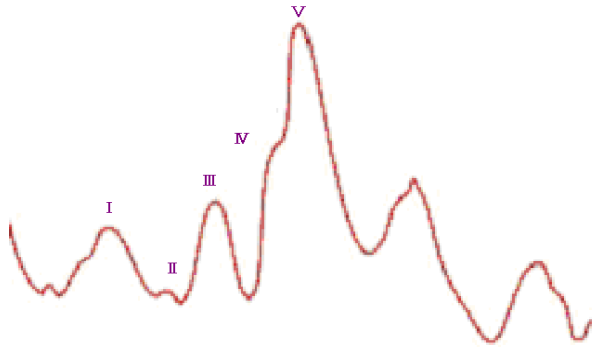


聴性脳幹反応検査とは

音の聴こえ具合を脳の反応としてとらえ、「波」として記録します。

波形には一定のパターンがあり、I（いち）波からV（ご）波まで名前がそれぞれに付いています。決まった時間にそれぞれの波形が現れていること、V波がどのくらい小さな音まで現れているかをみることで、聴力を評価していきます。



聴性脳幹反応検査で分かること

難聴の原因には、音の通り道に異常があって聴こえにくいと感じる伝音性難聴と、神経に異常があって音を感じ取ることができない感音性難聴の二つがあります。この検査を行うことで、音が聴こえにくい原因がどちらにあるかを調べることができます。



聴性脳幹反応検査のあれこれ Q&A よくある質問にお答えします

Q：どの様に検査するのですか？

A：頭と耳に電極をつけ、ヘッドホンから出る音を聴いていただきます。

Q：どのような音が聴こえるのですか？

A：ヘッドホンからカチカチといった音が聴こえます。大きな音から小さな音まで順に進んでいきます。

Q：何分くらいかかりますか？

A：状況により変わりますが、おおよそ45分～1時間程度です。

Q：寝てしまっても大丈夫ですか？（大人の場合）

A：意識や睡眠状態の影響を受けにくく、再現性のよい安定した波形が得られるとされているため、特に問題ありません。

Q：寝ていないと検査できないのですか？（小児・幼児・乳児の場合）

A：検査ではとても小さな電気信号を記録します。そのため、起きていると動くことで別の大きな信号（例えば筋肉の動き）が入り込み、正しく検査ができなくなります。医師の指示に従い、薬を飲み眠っている状態で、検査に臨んで下さい。

